

スイス連邦における医療機関の通訳利用とその効果

多文化共生センターきょうと 重野亜久里

背景：スイス連邦は、外国人が人口（795万4622人）の22.8%（181万5994人）を占める移民国家である。スイスでは2004年より社会サービス、教育、医療分野における通訳者の認定と派遣制度を実施している。このシステムの導入にあたり、労働社会政策研究所BASSは医療分野における通訳に焦点をあて「病院やクリニックにおけるコミュニティ通訳の利用と効果」と「医療保険制度におけるコミュニティ通訳費用と利益」という2つの調査・分析を実施した。この調査では医療機関の通訳利用状況、医療従事者へのアンケート、ヒアリング、移民に対する健康調査を通じて、多角的な側面から医療通訳について論じている。今回は医療通訳の利用状況、通訳利用の効果、患者の健康に関する影響、通訳利用に関する直接的、間接的費用に関して報告する。

結果：

- 通訳利用時間は制度の導入後5年で47%上昇した。（49037時間（2006）から72044時間（2010））
- 通訳利用の多い診療科は精神・小児・産婦人科であった
- 医療者が通訳利用を決定する基準はコミュニケーションが不確実である場合が8割を占めている
- 通訳が必要だと判断された患者の健康状態は通訳対応のない患者より悪い
- 通訳が必要だと判断された患者は通訳対応のない患者よりも健康に関するリテラシーが低い
- 医療通訳の利用は患者の予防行動を促す上で効果的である
- 医療通訳の介入は将来的な経済的コストを低減する
 - *通訳利用の直接的な利益は会話の効率化と不確実性・医療検査数・病院滞在日数・受診率・病院占有率の削減となり、更には誤診、ミス、失敗の可能性を減少させる
 - *通訳利用の間接的な利益は早期診断と治療、予防行動を促し、通訳介入による患者の健康リテラシーを向上させ、治療に対する患者のモチベーションを高め、医療・治療に対する患者の順応性を向上させる

考察:コミュニケーションが不確実な他言語話者患者の多くは健康状態や健康に関する知識が不足している。医療通訳が介入し的確な情報が患者に伝えられる事によって、患者の健康リテラシーの向上、予防行動が促進され、結果的に患者の健康状態に大きな影響を与えていることがわかった。また通訳利用が可能なのが患者の医療サービスへのアクセスを早め、治療の遅れや、慢性化などのリスクを軽減している。結果として患者の身体的、心理的、経済的負担が軽減される。また、不確実なコミュニケーションによる医療者の誤診、ミスの可能性も低減させる。通訳の介入によって、患者が適切なタイミングで治療を受けることは医療機関、医療制度や社会全体に対するコストを減らす事にもなる。医療通訳の利用は、コストはかかるが、一時的なコストであり、長期的視野でみると経費の削減に繋がる。

本発表は「BASS」労働社会政策研究所より発表された以下の医療通訳に関する報告書を参照した

Einsatz und Wirkung von interkulturellem Übersetzen in Spitälern und Kliniken (BASS 2009)

Kosten und Nutzen des interkulturellen Übersetzens im Gesundheitswesen (BASS 2012)

* BASS: BÜRO FÜR ARBEITS UND SOZIALPOLITISCHE STUDIEN BASS AG